

ことばのあかり

何を口にしても砂をかむようだということが
まっすぐに歩けなくなるということが
息をすることさえ苦しいということが
明日が来ることが怖いということが
ほんとうにあることを知った漆黒のとき
闇のなかでさまよい、手さぐりで這いながら
探したのは、一筋のことばでした
ことばは、少女のするマッチの焰のようでした
飢えた心を満たし
震える体をあたため
暗闇の先を照らしてくれました
ことばは、いのちの糧であり、ぬくもりであり、たしかなともしびでありました
今日もことばの灯に照らされながら
ほつほつと歩いていきます